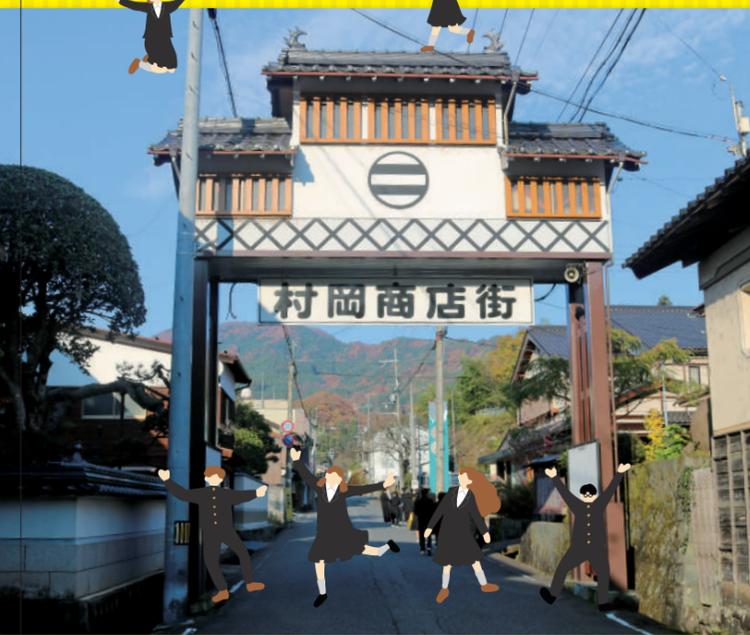


村岡城下町 ウォークラリー

MAP
2022年度版



【発行】

兵庫県立村岡高等学校

『ひと・もの・こと』魅力発信プロジェクト

〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡 2931

☎0796-94-0201

【監修】鳥取大学地域学部

【協力】香美町地域おこし協力隊

①まほろば



当初、陣屋があった場所ですが、陣屋は1806年に御殿山に移されています。
この場所は旧美方郡役場が建っていた場所です。現在の建物は山陰道(国道9号線)改修により少し動かし現在地に向きを変えた形で移築しました。

②郭門



郭門(かくもん)とは、お城の内囲いするための門で、池田屋敷の堀のあたりにあったと考えられ、武家屋敷を行き来する者を制限していました。当時はもう少し下にあり、武家屋敷と町家の境を仕切っていました。現存する郭門は商店街のアーケードとして昭和時代に建設されたものです。

③池田屋敷



池田屋敷は200年前に建てられた、今も現存する建物です。
武家屋敷は山名氏に仕える武士が住んでいた場所です。現在の「まほろば」は山名屋敷、「但馬信用金庫」は宮田屋敷、「商工会館」は町田屋敷、「大字会館」は土井屋敷と続いています。

④江戸重



「江戸重」は江戸から来た料亭の「江戸一」から端を発する料理屋で今も現存する建物です。
昔は、芸者が夜遅くまで三味線や太鼓、鐘の音を轟かせていました。100人から飲食ができる大きな部屋が今でも残っています。

⑤大運寺



1648年に小代から現在地に移転されました。1716年に焼失、現在の堂の建物は1765年に再建されました。村岡宿の入り口にあり山陰道を行き交う人々を見張る警護の役目も担っていたと言われています。毎年秋になると、黄色の映える綺麗なイチョウが私たちを見守っています。

⑥江戸常旅館



法雲寺から出た左手の大きな建物は、「江戸常」旅館です。元は料亭「江戸重」の分家になります。
山名の殿様が江戸から連れてきた料理屋の末裔(まつえい)の料亭「江戸重」から料理人を連れてきたことに由来します。

⑦法雲寺



1350年ころ創建され、戦国時代には「法恩寺」と呼ばれていました。
3代目山名矩豊(のりとよ)が陣屋を福岡から村岡に移したときに、名を「東林山法雲寺(とうりんざんほううんじ)」に改め、山名家の総菩提寺として定めました。
山名家の歴史やそれにまつわる宝物を大切に維持、保管(山名蔵)されています。

⑧旧警察署



ここには旧山陰道に面して建てられた旧七美郡警察署がありました。
この建物の屋根の形状は一般の住宅には使われていない寄棟造(よせむねづくり)となっており、軒下には飾り板をつけて、明治建築の雰囲気を残しています。歴史を感じることでできる貴重な建物です。

⑨厳浄寺



厳浄寺の創建は不詳ですが福岡字寺山にあったものを1394年~1428年に法誉学翁上人が村岡へ移しました。その後数度の火災を繰り返し1677年に現在地に境内を移しています。村岡藩主山名氏から庇護され元禄年間(1688年~1703年)には第4代藩主山名隆豊が釈迦牟尼立像を奉納しています。

⑩黒野神社



黒野神社は、927年に書かれた延喜式神名帳(えんぎしきじんめいちょう)にも出てくる、由緒ある神社です。
村岡に陣屋を置いた山名家は、黒野神社を大切にしており、1765年には七代目義徳(よしのり)と家来、町民の寄付によって本殿が再建されました。再建された本殿は大きく、構造や彫刻がとてもよくできていて、美しい建物で、兵庫県指定重要文化財に指定されています。

⑪壺溪御廟



壺溪御廟(つぼだにごびょう)は第3代矩豊(のりとよ)から第10代義問(よしただ)までの墓所です。初代豊国(とよくに)から13代義鶴(よしつる)にいたるまでの墓所が村岡区内3か所【二峠御廟(ほいとうげごびょう)桜山御廟(さくらやまごびょう)壺溪御廟(さくらやまごびょう)壺溪御廟(さくらやまごびょう)】に分けて安置されています。格式に則った墓標は山名氏の風格を遺憾なく発揮し歴史的、石造美術的にも価値の高い文化財です。

⑫奥方部屋



因幡の国守護であった山名豊国(とよくに)が、村岡山名の初代となり、代々今の御殿山公園を本拠地として七美五郷を治めました。公園内には、山名氏の陣屋跡、歴代藩主の墓所などが整備され、幕末に建てられた奥方部屋も現存しています。春の桜、秋の紅葉などの景色も見事です。

①まほろば



②郭門



③池田屋敷



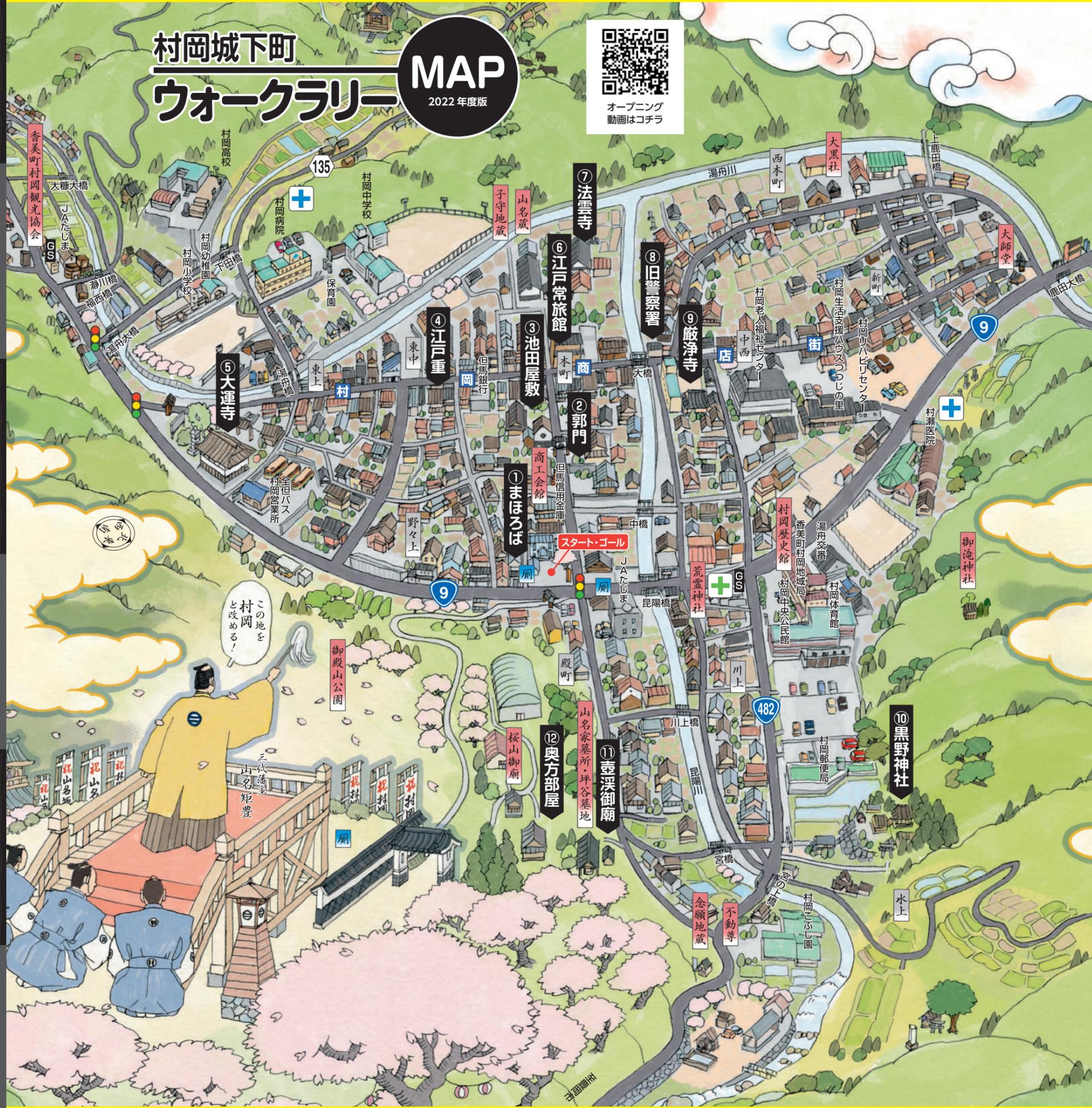
④江戸重



⑤大運寺



⑥江戸常旅館



⑦法雲寺



⑧旧警察署



⑨厳浄寺



⑩黒野神社



⑪壺溪御廟



⑫奥方部屋

